



**丹治 智寛さん (44)**

浅茅野台地在住。猿払村で唯一種牛を生産。全国の仲間たちと共に日本の酪農を支えるため、努力を惜しまない。牛を通して知り合いがたくさんでき、牛が世界を広げてくれたと話す。

丹治牧場は、現在、経産牛90頭、未経産牛90頭を、従業員含め4人で飼育しています。父親から経営を移譲されてからは、土のミネラルバランスを取るなど土づくりに取り組み、乳牛改良に力を入れています。

2月16日に公表された2021年2月乳用種雄牛評価成績において、「ハウル」という牛が第1位となりました。過去には、「ヘンリー」という牛が乳用雌牛評価成績において、第1位となるなど、雄牛、雌牛共に評価していただいている状況です。2つの部門で1位を取ったのは日本で3人目となります。

**挑戦しつづける酪農**

酪農について  
牛が主役と考えており、快適に過ごせる環境づくりを心がけています。一般的に種牛の生産は、日本でも年間10頭ほどしかされず、簡単ではないと言われていました。実際に雄牛を飼育している期間としては、3か月ほどになります。その間に、問題が起きないよう、最大限配慮しながら飼育を行い、家畜改良事業団に引き渡します。種牛の生産は難しいと言われていた状況でも、自分は苦勞と感じることは無く、楽しくできていたので、とても充実しています。また、東宗谷農協乳牛改良



丹治牧場  
ホームページ

**一緒にバレーしませんか？**

現在は、活動前後に検温や手指消毒をするなど、感染症対策をしながら練習しています。小学1年生以上の男女が入団可能で、見学もできますので、ぜひ一度遊びに来てください！

【日時】 毎週月・水・金曜日  
(月・水) 17:30 ~ 19:30  
(金) 17:30 ~ 19:00

【場所】 農村環境改善センター

バレーボール少年団「猿払レインボー」は、3月で6年生2名が卒業し、4月から女子5名、男子2名の計7名で活動しています。男女混合チームとして大会に出場はできていますが、年々団員数は減っています。人数は少ないながらも、挨拶や声を出すこと、元気の良さは負けません。取材に伺った3月12日。練習中の体育館からは、明るい声が響き渡っていました。体育館に入るとチーム全員が集まり「よろしくお願ひします！」とハキハキとあいさつ。練習中でも笑顔が絶えず、楽しんでバレーをしているのが伝わってきました。



▲良いプレーをした人やミスをしてしまった人に、全員が駆け寄って声掛けや足タッチをしています。



▲上級生を中心にきびきびと整列し笑顔▶で撮影。メリハリのある行動ができていました。



▲左から菊池李依さん、細川舞桜さん

**バレーは怖くない、楽しいです！**

3月でバレー少年団を卒業した2名にインタビューしました。

「バレーをやったよかったこと  
コミュニケーションを大切にするスポーツなので、いろんな人と仲良くなれたことです。」

「バレーを通して学んだこと  
他のチームの監督にも元気にあいさつをしたり、大人に敬語を使ったり、あいさつの大切さや礼儀を学びました。他にも、学校でも、積極的に自分の気持ちを言えるようになりました。」

「バレーを始める人へひとこと  
声を出すことが苦手な人でもやっていくうちに慣れていきます。きついイメージもあるかもしれないけれど、みんな優しく教えてくれます。バレーはそんなに怖くない、楽しいです！」

指導者の声  
日常でできないことばはバレーでもできないので、練習だけでなく日常生活でも「観察」「考える」「行動する」ことができてよう力を入れて指導しています。

保護者の声  
上手くできなくても上級生が優しくフォローしてくれるなど、助け合うことの大切さを学べます。それが上から下の子へと繋がっていきます。バレーはもちろんですが、挨拶や礼儀、体育館やボールなどを大切に使うこともバレーを通して教えてくれました。

■お問合せ先  
猿払村教育委員会  
☎01635121301